

2025 年第 19 週の報告です。

定点報告感染症は、**咽頭結膜熱**が山城北で、**伝染性紅斑**も南丹と乙訓で警報レベルが継続しています。ほかに**水痘**が乙訓で注意報レベルになりました。全数報告対象疾患は、**結核**が 4 件、**レジオネラ症**が 2 件、**水痘（入院例）**と**梅毒**がそれぞれ 1 件、**百日咳**が 37 件の報告がありました。

水痘の報告数が徐々に増加しており、今週は入院症例も確認されました。全国的にも、昨年より多くの患者が報告されています。9 歳以下での発症が 90%以上を占めると言われていますが、京都府では今年に入ってから 10~14 歳の発症も目立ちます。水痘は「水ぼうそう」とも呼ばれ、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）による急性の感染症で、空気感染、飛沫感染、あるいは接触感染によって広がります。潜伏期間は約 2 週間で、発熱や発疹が主な症状です。多くは軽症ですが、成人や妊婦が初めて感染すると重症化することがあります。胎児が先天性水痘症候群を発症することもあります。治療としては重症度に合わせて抗ウイルス薬が用いられます。水痘ワクチンの 1 回の接種で重症化をほぼ防ぎ、2 回で発症自体の予防効果が高まります。未接種の場合、まれに重い合併症や死亡に至ることもあります。定期接種は生後 12 か月から 36 か月の間に 2 回受けることが推奨されています。予防のため、対象年齢の方は早めの接種をご検討ください。